

2008年(平成20年)6月11日 水曜日

(第3種郵便物認可)

知的な遅れはないが、落ち着きのない「多動性」や会話する力の不足などで学校生活が難しい子どもたち一発達障害児の問題が近年クローズアップされている。長崎市内で療育活動に取り組むのが、NPO法人「なごみの杜(もり)」(土田玲子代表理事)。同会は十四日から同市茂里町の長崎新聞文化ホールで、ソープ氏の絵画展を開く。十八日まで。無料。発達障害への理解を深めてもらいたいと、市民多数の来場を呼び掛けている。

14日からM・ソープ氏絵画展



マッケンジー・ソープ氏の作品「Love Cat」



マッケンジー・ソープ氏

同じ障害を抱えて育ち現在画家として活躍するイギリス人、マッケンジー・ソープ氏の絵画展を開く。十八日まで。無料。発達障害への理解を深めてもらいたいと、市民多数の来場を呼び掛けている。

発達障害 知ってほしい



「スーパーマンクラス」でゲーム感覚の療育に参加する子どもたち

=長崎市宝町、なごみの杜

発達障害 乳児期から幼児期にかけさまざまな原因が影響、発達の遅れやゆがみで、機能獲得に困難が生じる心身の障害をいう。学術的には知的障害を含むが、一般的には知的障害を伴わない軽度発達障害を指

なごみの杜の親子は、長崎大医療技術短大部助教授だったセラピストの土田氏(現県立広島保健福祉学部教授)を中心に、約二十年前から発達障害のリハビリテーションを取り組んできた。現在、同市宝町のビルに事務所兼療

すことが多い。その特徴を遅れやゆがみととらえない立場もある。軽度発達障害の代表的な症例には「高機能自閉症」「アスペルガーリー症候群」「学習障害(LD)」「注意欠陥・多動性障害(ADHD)」がある。

通所しているのは小学一年から二十代の成人まで五十五人。普通学級で学ぶ子どもが多いが、特別支援学級や養護学校に在籍する生徒などさまざまという。感覚統合療法に基づく「スーパーマンクラス」を運営。専属の作業療法士や

育スペースを置く。

通所しているのは小学一年から二十代の成人まで五十五人。普通学級で学ぶ子どもが

多いが、特別支援学級や養護学校に在籍する生徒などさまざまという。感覚統合療法に基

長崎で療育活動「なごみの杜」

なごみの杜理事の谷栄子さんは、「発達障害への社会的認知はまだまだ低い。専門家も少なく、公的支援は私たちが望むものと大きな開きがある。よりよい子どもの成長を市民とともに考える場にしたい」と話している。

市内大学のボランティアがマントンマンでつきながら、スイング(フランコ)やボールプール、マットなどを取り入れた療育活動を続けている。自然に触れての野外作業や音楽療法など、交流を深めながらのプログラムも多い。

絵画展はチャリティーアイントとして開く。一九五六年英國生まれのソープさんは、子どものころ簡単な単語さえ書けず、教師にしかられてばかりだったが、読み書きだけに困難を示す学習障害の一症)こと後に分かったという。二十歳で美術学校に入つて道が開け、千七百社加盟の英画廊組合は二〇〇〇年、ベストセラー・アーチストを選出。ソープ氏は世界各地を巡回ハンディを背負った子どもたちを励ましている。会場にはパステル画や版画などファンタジックな作品五十点を展示。十四日は同氏が来場、ワーカーショップやサイン会もある。